1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　－　）

事業所番号	0692500051		
法人名	特定非営利法人やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	山形県最上郡最上町向町5-10		
自己評価作成日	平成26年11月1日	開設年月日	平成22年11月1　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3―31		
訪問調査日	平成　26年　12月　15日	評価結果決定日	平成　27年　1月　7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1．食事の献立、内容、バランス等、今までの食事づくりを職員みんなで、振り返り、その改善と充実に取り組む。
2．町内の開業医が訪問診療を開始したのに伴い、いよいよ「看取り指針」に基づいて、ホームでの看取りについて職員の学習を重ね、いつでも対応できる体制を構築していきたい。
3．運営推進会議に家族も参加していただいているが、もっと家族との関係づくりを強化するため、「家族会」づくりを通じて、職員、法人理事会との懇談をまず年数回程度行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の暮らしてきた生活のペースを軸に好きなことの延長、得意なこと、関心ごとなど一人ひとりに合わせた対応に心がけ、笑顔に繋がる支援に努めています。開設の想いを職員と共有し、認知症高齢者を地域全体でサポートする地域ケアシステムへの取り組みや県内外のグループホームとの情報ネットワークづくりなど多くの方々から協力と応援をもらい、利用者が安心して暮らせるよう配慮しています。また毎年開かれているミニコンサート(年4回)では、地域ボランティアの協力をもらいながら他事業所の利用者をもてなし、同じ時間を共有する喜びや笑顔も見られ楽しみの一つとなっています。これから認知症カフェを開設し家族等の気持ちに寄り添える場所の提供をしていきたいと考えており、地域に開かれた事業所を目指しています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価(結果)」　2014年度

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそって、利用者に寄り添い、なるべくコミュニケーションをとるように心がけている。	「利用者にとってどんな関わりがよいのか」「気持ちに沿った介護とは」など日々考えながら理念の思いを皆で共有し、自己評価を通して振り返っている。利用者の生活リズムに合わせたケアサービスを提供し、その人らしく暮らせるように努めている。	
2	(2)	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、いも煮会、芸文祭などの行事に積極的に参加している。ホームのコンサートに、他の施設の利用者も参加している。	2ヶ月に1回、やまなみの支援者や最上町内全土に事業所の活動内容や思いを載せた広報誌を発信し、広く購読されている。また、地域ボランティアの協力を得て他事業所も招待し年4回ミニコンサートを開催し、招く喜びや笑顔も見られ賑やかに過ごしている。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が2ケ月に1回発行している会報でグループホームの生活の様子や、認知症について、地域に発言し、人々に広く知らせている。		
4	(3)	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1回定期的に開催している。出席した方から意見をいただき、認知症の理解を得るための学習会も行っている。	毎回、事業所の2ヶ月の活動報告と事前に送付しているテーマ・議題について、たくさん意見交換している。事業所の取り組みと利用者のニーズについて皆で勉強し、安心できる暮らしを整えられるよう一体となって話し合っている。	
5	(4)	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター長に出席してもらい、意見やアドバイス、情報を提供してもらっている。	日頃から事業所の取り組み報告や町の情報を交換し共有している。現在進んでいる認知症の方や家族等をサポートする拠点(認知症カフェ)の設立に向け一緒に取り組み、理解と支援をもらっている。	
6	(5)	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外に出たい方とは、なるべく職員が付き添って散歩に行ったりするが、日常的に立ち上がって、おちつきのない利用者さんに「座ってください」と言葉で強く言ってしまうことがある。	普段から利用者のこれまでの生活習慣や生きてきた歴史を知ることで、不穏時の対応や声がけの仕方、見守り方などに活かせることを全員で話し合い共有している。行動の気持ちを押さえつけず、自由にかつ安全に配慮した支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員で虐待防止について、職員ミーティングで学んだり、話し合いをし、言葉づかいにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで話を聞いたり、資料や書籍などもあるが、学習して行く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者の家族に、利用契約書、重要事項説明書、運営規程を読み上げ、説明を行ってから契約している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者の様子を写真や、たよりで家族に発信し、来所時気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。	面会に訪れる家族等が多く、日頃の様子を伝え要望などに耳を傾けている。利用者の表情やその時々の本音などから思いを捉え、運営やサービスに反映させている。これから家族会も開いてみたいと検討している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングや、日常的に話し合い、情報を共有して意見を出し合っている。意見交換は、まだまだ十分でないように思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年4月より、給与体系を全面的に見直し、給与水準を向上させた。資格を新たに取得した人にはキャリアパスを重視して、給与を上げた。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、ミーティング時に職員学習を毎回行っている。学習はテーマを決めている。	認知症の関わりについて広い分野からテーマを設け、毎月の職員ミーティング内で学習している。外部研修から新しい知識や技術を習得し、事業所の開設のきっかけや方針の想いなどを職員全員で共有し理解の統一と対応に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最上地区GH連絡会や、町内、宮城県大崎市のGHとコンサートを通じて交流している。	2ヶ月に1回、最上地区にある事業所と交換交流や会議を通して管理職や職員も参加し、コミュニケーションを図りながら介護の悩みや情報交換をしている。その気づきから、自分たちを振り返り、ケアに反映させている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1になれる入浴介助のときは、本人の思いを知れるチャンスだと思い、積極的に話しかけている。1日2回の申し送りに、利用者の言ったこと、行動を細めに記録し、介護者に伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に限らず見学に来てもらい、利用者の生活の様子を見てもらっている。家族に安心してもらえるよう、丁寧に説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの生活リズムが分かるまで、記録を詳しく書くなどして、介護支援に結びつけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが手伝えそうなことはやっていただくようにしている。洗濯物たたみや、野菜の皮むきなど、一緒に料理できる人もいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく多く面会に来てもらい、介護計画にも取り入れている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族、友人、知人にひんぱんに来訪してもらっている。昼食を一緒に食べてもらうこともある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めているが、利用者が他の利用者の文句を言う場面がたびたび見られ、改善の努力をしているところです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院で亡くなり、退所された家族の方も、たびたび来所している。運営推進会議のメンバーになってもらっている家族もいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新聞を個人で購読している方が1名、音楽の好きな方には、CDを流して、聴いてもらったりしている。	利用者のこれまでの生活習慣や職歴などから、本人の得意なことや出来る力を発揮する場を作ったり表情や言動などから気持ちを汲み取り、1対1で接し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や他のサービス事業者との申し送りを受け、カンファレンスをして、サービスをスムーズに行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し、健康チェック表等を通じて、把握につとめている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンス、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、サービスにつなげている。	利用者の希望や思いと家族等の意向を反映させ、本人本位の暮らしが送れるよう配慮している。心身の状態低下や気づきなどから柔軟に対応し、現状に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りと日誌に記録して、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年3回のミニコンサートに、他のGHを招待したり、地域のまつり、いも煮会、芸文祭等に積極的に参加している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族の同意を得ている。家族の付き添いをお願いしているが、家族の都合がつかない時は、ホームで対応している。	利用者は従来のかかりつけ医を継続し、通常の受診は家族等が対応している。付き添いは面会の機会を兼ねての来所をお願いし、遠方の方にも理解をもらっている。症状によっては職員も同行し、いずれの場合も結果は記録し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りに週2回出席してもらい、心配なことや、利用者さんに変わったことがあったら、把握し、アドバイスをいただいている。看護師がいることで安心して仕事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリ(症状経過)を利用して医療機関との情報共有に努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアや看取りについて、家族、診療訪問医師、職員と話し合いを行った。職員も看取りの指針に基づいた学習を行っている。	町内の開業医から訪問診療可能との申し出があり、看取り指針に基づき前向きに対応を進めている。職員全員で看取りや死に関する書籍を読んで感想文を提出し、全体での学習を重ねて意識の向上を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年、緊急対応と事故防止のマニュアルを今までのものより、よりわかりやすくした「安全管理実践帖」を作成し、職員全員で読み、確認した。定期的にAED、人工呼吸の訓練を行っている。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の1人勤務時の火災を想定した避難訓練を年2回行っている。終了後、反省会を開き、次回につなげている。	夜間想定した訓練に力を入れて取り組み、利用者も保温断熱シートをかぶり参加している。近所や地域消防団の協力も得られているが、職員と利用者の動きを見極めて実践に繋がる体制作りを整えている。冬期間の避難経路は常に除雪し確保している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者に丁寧な言葉づかいをするよう心がけている。	一人ひとりのこれまでの背景を熟知し、既往歴や生活歴を尊重した丁寧なその方に合った言葉掛けで対応している。誘導の声掛けは言葉を選び、周囲に配慮してさりげなく介助し、職員間でも統一した対応に心がけ互いに注意し合える環境になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくコミュニケーションをとるよう心がけ、利用者の思いを理解できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになってしまっている事があるので、気をつけたいと思う。時間に余裕がなく、希望どおりにならない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できていると思う。毎日化粧している人もいるし、外出時化粧する人もいる。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、利用者さんに聞いて、なるべく季節感のある献立を取り入れている。一緒に食器洗い、テーブル拭き、味付けなどを手伝ってもらっている。	利用者の希望を取り入れた献立を作り一緒に買い物に出かけている。近所から旬の差し入れも多くなじみの郷土料理、行事食も楽しみ、家庭と同じ感覚でトレーを使わず配膳し、エプロンもできるだけ着用しないで職員と共に食卓についている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食、水分量、おやつの摂取量を記録している。利用者の状況に応じて、キザミ食、おかゆト、ロミをつけたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態に合せて、声かけ、トイレ誘導、オムツ交換をしている。	一人ひとりチェック表で把握し、その人に合った用品を使い分け介助している。自立している利用者もいるが、訴えがある時はプライドを大事に考え、周りに注意して羞恥心に配慮しさりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳、ヨーグルトを摂取し、便秘予防に対応している。野菜、イモ類など、水分摂取も心がけている。便秘が続く場合は、下剤で対応している。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に4名入浴させている。重度化に応じて、シャワー浴、足浴、2人介助などで入浴している。個々に応じた時間の入浴はできていない。	利用者が希望する入浴時間に必ずしも沿えていないところは利用者の希望を聞きながら、職員と話し合い検討して工夫を図るよう努めていきたいと考えている。	利用者本位の入浴が出来るように体制づくりの検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整を行ったり、就寝時間の希望を聞いて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人のファイルがあり、目を通せるようになっている。服薬まで3回確認して、誤薬を防止している。服薬の拒否がある時は、少し時間をおいて、対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴や、歌を唄ったり、CDを聞いたり、ドライブ、買い物にも出かけている。午後は、体操をしたり、天気のいい日は、テラスに出て、おやつを食べたりして過ごしている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添い、散歩や買い物、外食、ドライブ、コンサート、花見、紅葉狩り等に出かけている。	食材の購入に同行して日用品などの買い物をし、また短時間の散歩やドライブに出かけるなど自然に親しむ機会を設けている。全員車椅子で地区商店会のまつりや、季節毎の各地の催事に有償ボランティアを利用して出かけたりして、その際には外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員や家族と一緒に買い物に出かけている。お金の管理ができる利用者はほとんどいないので、お金を所持している人は今のところいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、電話はかけられるようにしている。東京の家族から電話がかかって来ることがある。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や写真を季節に応じて替えている。テーブルには季節の花を生けるよう心がけている。居間から眺める景色は最高だ!!	コンサートもできる広いリビングの壁面に大きな絵画が季節毎に掛け替え、四季を感じるアクセントになっている。窓辺にはソファーを設け利用者が一人になれる居場所も確保されている。トイレには立ち上がり前面介助バーを設置し安全に使いやすい工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつもリビングで過ごしているが、自室に行って、引き出しの整理、化粧、ベットに横になったり、自由に過ごしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からタンス、イス、机などを持参し、絵や写真も飾っている。仏壇、人形などを飾っている人もいる。	利用者が自ら書いた名札を入り口に張り、自由に持ち込んだなじみのタンスにわかりやすく品名を張り混乱しないよう工夫し、配置にも気をつけた設えをしている。よく散歩する利用者はすぐ出かけられるように上着など揃えてあり、思い思いの居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、ホーム内の危険個所だけでなく車イスなどで傷にならないようにカバーを付けるなど工夫している。		